修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幌ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

飛鳥

保存と開発の亀裂

緊急の抜本対策を

壊滅寸前の現地をみる

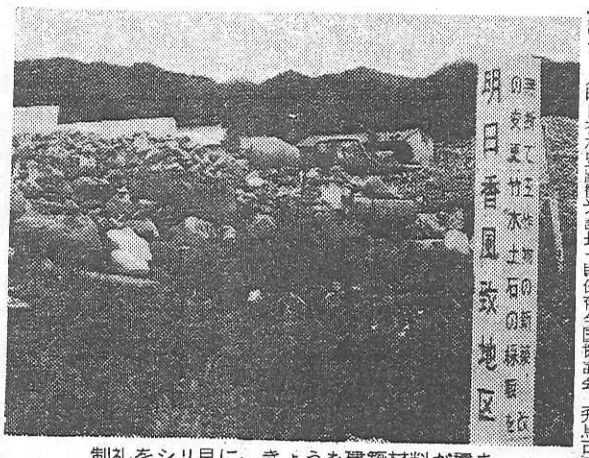
日本のふるさと〝飛鳥〟は、佐藤首相の訪問などによって保存対策が急激に叫ばれてきた。坤しよせる土地の造成と開発のため埋蔵文化をはじめ景観まで失われつつあり、さらに心なき観光客の手で古文化財は傷つけられている。全修協ではすでにこの〝飛鳥〟の存在意義を認識し、夏季教職員研修旅行に飛鳥・大和路コースを組み入れ、昨年、一昨年に実施し、参加者から大きな反響をまき起した。（本年は万博のため中止、来年は実施の予定）全修協本部はこの保存問題に強く現地の事情や明日香村当局の対策などをくむため広報部長を派遣したが、破壊は想像以上に進み、もはや一刻の猶予もできぬ段階に達し、修学旅行のメッカは危機に瀕しているという。

現地報告

断続する梅雨前線の七月七日、飛鳥の地を踏んだ記者の頭を瞬間的にかすめたのは昨年と一昨年夏の研修旅行のことだった。あの日研修旅行団は橿原神宮を経て安居院、橘寺、飛鳥寺、坂合宮跡（伝達）、石舞台などを回った。そこには真夏のかわいた空気に包まれてひろがっている緑の平野が、大和三山を背景に千古のたたずまいを見せていた。関西大学助教授網干善教氏、県立橿原明日香村史跡観光課員の説明、質疑応答の活気あふれる研修旅行団の姿は感動にみちて汗をぬぐうのも忘れていたほどだ。〝私たちの生きている間、おそらくこの景観は変らないだろう〟といった若い学者・網干氏の表情が強烈な印象となって今でも残っている。

あのときの豊かな景観は、いま刻一刻と削られつつある。飛鳥等の風土審議会（文化庁）、超党派の飛鳥古京を守る議員連盟、民間団体の文化財保存全国協議会、飛鳥古京を守る会などクワワをならべている。これらの機関が大乗的見地に立った英知を出し、それを統一化しなければならぬ段階にきている。もちろん村民の生活を守るための配慮は絶対に必要である。

好事家、学生、一般観光客のほか多くの修学旅行生徒が飛鳥を訪れる。市井に流布される安易な解説書を頼りにしてこの地をめぐるのでは全く無意味である。ここで何を考え、何を感ずるかが必要なのである。飛鳥とは、そういうところだ。



制礼をシリ目に、きょうも建築材料が積まれていく。（明日香村で）

わきでは〝標識〟を先頭に建築現場があった。おそらく工場が建つのだろうか。無細工なバラックの飯場の物干竿には汗のにじんだ下着らいが風に流れている。

石舞台では観光客が石の上によじのぼって、さっそうと胸を張りその下からカメラのレンズが仰いでいる。遊園地である。この石舞台の管理費は県から年にたった六千四百円、それにわずかな入場料で維持している。また、村当局の悩みタネは観光客の落すゴミの処理。アキ瓶、アキ缶はお手あげという。住宅はトタン屋根に改装されつつあるが、せめて音の面影を伝えようと二、三軒の家をカヤぶきにしているのがせめての心づかいだ。（明日香村史跡観光課長山本幸男氏）万葉人によまれた飛鳥川も、今ではかろうじて流れを保っているにすぎない。

〝飛鳥〟はわれわれの歴史を知るうえに貴重な財産であるが、これを保存するための施策がタテ割りになっているので、その隙間から〝破壊の手〟が伸びるのである。古都保存法（建設省）文化財保護法（文化庁）農地法（農林省）などの法律のほか、道路が建設省観光施設が運輸省、レクリエーションは文部省、厚生省と入り組みさらに建築機関として歴史的風土審議会（総理府）文化財保護審議会（文化庁）、超党派の飛鳥古京を守る議員連盟、民間団体の文化財保存全国協議会、飛鳥古京を守

論点

修学旅行の問題点

主として事故防止の立場から

横溝　章

修学旅行・遠足・見学などの校外学習は、児童・生徒の人間形成に測りしれない影響を与えている。このことについては、いまさらここで改めて詳しくのべるまでもないが、平素の学習の発展拡充をはかり、豊かな情操を養い、心身の健康を育て、生活指導の好機として、また、児童・生徒の楽しい思い出を育てる場としてその教育的意義は極めて大きい。

しかしながら、最近修学旅行に対する批判が各方面より起っている。その問題の中には教育界だけでは解決が困難なものもあるが、指摘された点については講師に耳を傾け、みつめてみる必要も大事であろう。

まず、われわれ教育にたずさわっている者だけでも改善できる問題としては次のような点が挙げられるであろう。

交通安全について

最近の交通戦争の激しさからみて、何百人もの生徒が一集団となり、バスを連ねて見学地をまわることは極めて危険なことである。安全運転、日程、見学先の受入れなどの観点から一団の台数を検討することが必要である。

また、バスを契約する際の条件に、交通法規の遵守、事故発生の際の補償、あるいは代替車両の手配などもふくめた契約書を旅行斡旋業者を通してもっておかなくてはなるまい。

さらに、引率責任者は乗車期間中、毎朝バス運転者及びガイドを集め、無理な運転の禁止など、安全運転の励行を要請し優秀なガイドより優秀な運転士を希望する傾向が望まれる。

保健の面から

所定の手続きにより、現地の保健所に、宿泊予定の旅館及び休憩所などの衛生状況について十分調査し指導してもらうと共に、実地踏査においてもこのことについて調査し、たしかめておくことがたいせつである。

児童、生徒自体については、事前の健康診断の実施はいうまでもないが、そこで発見できないような病気をもっている者をどうするか。とくに心臓関係の持病のある生徒は、その参加については十分検討されなくてはなるまい。

また、校医が旅行に同行することが望ましいことはいうまでもないが、それが不可能な場合は、緊急時にいつでも必要な手続きがとれるような手はずをととのえておくことが必要である

災害に備えて

最近は多くの学校は宿舎に到着すると直ちに避難訓練を実施しているようであるが、単に非常口と表示してあるところの確認だけではなく、指導者は実際にそこが安全に避難できる通路につながっているかを点検しておく細心さが望まれる。

生活指導の立場で

自然を愛し、文化財を尊重する態度の指導と共に他校生徒との接触や飲酒・喫煙・万引きなどの非行予防には万全を期し、平素から問題行動のある生徒についてはとくに個別的にその指導が配慮されていなくてはならないであろう。（東京都品川区教育委員会指導主事）

× × ×
× × ×

全修協と共同研究

総理府歴史的風土審議会専門委員、奈良教育大学教授　寺尾　勇氏談

寺尾　勇氏

日本古文化の姿をそのまま伝える貴重な飛鳥を、国土愛の立場からもまもり抜かねばならぬギリギリの線にきている。もちろん景観を含めての保護対策であるべきだ。われわれ風土審でも以前からたびたび会合を開いて立案検討を続けている。飛鳥は京都とともに修学旅行地として最重要な場所であり各教科にわたる資料も豊富なのでこれからの修学旅行のテスト・ケースとなり得る。風土審は修学旅行の実態についてくわしく知る必要を生じているので、全修協と共同研究の線にまで持っていきたい。

消える飛鳥の里

国学院大学教授・文学博士　樋口清之氏談

樋口清之氏

「促成栽培用のビニール・ハウスは景観を害するから撤去せよ」とか「排ガン機は地下に埋没している古文化財をこわすおそれがあるからスキ、クワで田畑をたがやせ」などという奈良県当局の通達は生活をおびやかすものとして明らかに常識はずれである。果してこれでよいのであろうか。

日香村民から総スカンをくったのは当然である。文化財保護が政治と住民との谷間で宙ぶらりんとなっている。開発と保護との基本的方針の未確立、国家保護予算の不足文化財保護意識の低さ、そして、法とその運営の不備が原因だ。

風紋

にぎやかに、何万という人が集まるプロ野球のメッカ、東京球場に隣り合せて、円通寺という小寺がある。吉展地蔵というのがあって、誘かい魔に幼い命をうばわれた事件を今更のように思いださせ、ふと足をとどめるほかは、訪れる人も少ない。大都会の中の空虚な洞穴みたいなところだ▼このささやかな、荒廃したお寺にひっそりと彭義隊の墓があり、戦士二百六十六名が、吉展地蔵と同居?して地下に眠っているが、彭義隊戦士の方は、一本の線香も、一枝の花もない。賊軍という事であろうか、その墓石には氏名も刻んでなく、長雨時にはそこら一面水びたしとなり、雑草のしげりがいかにもあわれである▼このごろ、テレビに近藤勇、土方歳三という新選組戦士がさかんにあらわれ、身近かに感ぜられるが、この円通寺に来て、やぶ蚊にやられながら、彭義隊の人々のいわゆる草むすかばね?と歴史を語り合えば、やはり百年という歴史的実感を深くする▼この墓のそばに旧上野黒門がある。明治元年上野東台で、彭義隊士がこれによって大いに奮戦力闘せるもの、弾痕蜂の巣の如く印し激戦の状目のあたり見が如し（円通寺の由緒による）というが、その通りである。広重の版画、古今東京名所上野黒門にてという絹をお寺のだいこくさんが、見せて説明してくれたが、将軍の通るところなど、描くとおりに目の前にある▼だが、この一世紀のうつり変わりを、如実に見せてくれる格末の生きた遺物は、風雨にさらされくち果てんとし、もう崩壊寸前のすがたである。今く惜しいと思う。こうして江戸明治史の生きた証言が一つひとつ消え失り埋没しつつあるのが、非情な現実である。果してこれでよいのであろうか。

大和路の歴史・文化がひと目で
楽しめる展示館＝奈良歴史教室

心のふるさと大和路の飛鳥・奈良時代を中心に数々の展示物やスライドで名所・旧跡をご案内するほか　幻の名塔薬師寺西塔の再現・モザイクスクリーンによる大仏造立の物語など文化財美術工芸品をわかりやすくご紹介

▶近鉄奈良駅ビル（4・5階）
営業時間…平日10時～18時　日曜・祝日10時30分～18時30分（月曜休館）
＊予約団体は時間延長いたします
入場料…おとな100円　こども50円（団体は割引）

高価すぎる食堂

万国博のアンケート

全修協三重県支部が調査

全修協三重県支部主催の万国博研修旅行は県内PTAをはじめ教育界あげてこのほど九万五千人参加のもとに実施されたが、そのアンケートがまとまった。

それによるといずれも小グループによる見学ばかりで〝集団〟は一件もなかった。グループ別でいちばん多いのは六人組み、続いて五人、四人、七人、八人、三人、二人の順だった。

見学した外国展示館は①オーストラリア館②西ドイツ館③スイス館④フランス館⑤インド館。国内館では①ガス・パビリオン②みどり館③住友童話館④自動車館⑤ワコール・リッカー・ミシンの順。

また、「混雑しため見学できなかった」では外国館で①ソ連館②アメリカ館③オーストラリア館④フランス館⑤カナダ館。国内館では①みどり館②三菱未来館③日立グループ館④ガス・パビリオン⑤サントリー館の順。

「気付いた点」としては「混雑のため希望展示館が見られなかった」に対し、「案外早く見られた」「混雑するという前宣伝が大きすぎた」「意外に人が少なかった」にいうものから「もっと時間が欲しい」「見学は四時間で十分」という対照的なものまであった。

会場については「広すぎで疲れた」「思ったより狭かった」とまちまち。場内の設備では「標識をもっと大きくわかりやすく」「休憩の椅子が少ない」「トイレがどこにあるか分かりにくい」と訴えまた、「食物や品物、レストランの料理が高価すぎる」も多い。人間関係では「エキスポ・ガールやガードマンが親切」に対し「不親切」ときめつけたものもある。とくに売店の女店員のサービスが悪いと指摘するものや、展示館では「ワコール・リッカー・ミシン館は教育上よくない」と批難している人も多かった。

名古屋分室に昇格

全修協　東海の重要性に対処

鬼頭藤松氏

全修協では東海地区の組織拡大と今後激増が予想される伊勢志摩方面への修学旅行の重要起点としての機能を発揮するため従来の名古屋事務所を名古屋分室に昇格、初代室長に鬼頭藤松氏を八月一日付で任命した。

鬼頭藤松氏は春日井市生まれ。愛知県第一師範学校専攻科卒、名古屋市内の小中学校長を歴任、本年菊井中学校長を最後に退職した。六十一歳。

なお愛知県支部長は従来通り宮本秀吉氏である。

栃木県支部長に北条虎雄氏

全修協栃木県支部長野沢宣民氏は県連合教育会長辞任に伴ない支部長も退任した。後任支部長には新しく連合教育長会となった北条虎雄氏が八月一日付で就任した。北条新支部長の略歴などは次号掲載。

北条虎雄氏

修学旅行の実態調査から(2)

四十四年度に修学旅行に参加した児童生徒総数は四百十二万九千人で、四十三年度より十五万余人減。これは在籍児童数約十七万人の減少が原因である。そのうちわけは小学校児童は約百五十一万人中学校生徒は約百六十万人、高校生徒は百二万人で、小学校は主に一泊二日、日帰りの日程で県内、近県を二百㌔圏内を、中学校は主に二泊三日、三泊四日の日程で、五百㌔圏内、高校は主に五泊六日前後の日程で、千㌔圏内（例外もある）で、それぞれ動いている。

▼小学校は二百㌔圏内

小学校は日帰りや一泊二日など限られた日程のため、その動きは県内や近県に限られており、学校の位置や目的地、交通機関などの関係で地域差がある。大体の行程は二百㌔以内の圏内に限られている。

▼中学校は五百㌔圏内

中学校は、二泊三日あるいは三泊四日で、都府県や市町村単位に同一方向に纒って旅行しているケースが多い。（協会発行の資料参照のこと）大体の行程は、五百㌔青森、秋田、岩手の三県から入込んでおり、昨年の山形県がなくなっている。反対に人数は約一万三千人増えているが、これは青森県の中学生が増えたためである。

【東北方面】

北は北海道、南は千葉県、東京都が限界線となっている。

【北海道方面】

横顔

信望あつい教育人

＝全修協新潟県支部長＝

小島要氏

全修協の運動は前支部長小川喜代治氏（現参与）のあとを受けて立派になしとげ、早くも北陸地区の重鎮となっている。

高田師範本科二部および専攻科卒、県内各小中学校長を歴任昭和四十二年六月、財団法人新潟県厚生財団常務理事、同四十四年六月理事長就任と同時に全修協県支部長、現在に至る。

★…即物仏心―これが小島要氏の信条である。そしていつも口ずさむのは相馬御風氏の〝智のごとくすなおにのびのびとそだたぬものか人間の子も〟の歌である。人間回復の声がしきりに叫ばれる昨今、氏はすでに人間を愛し、自然を愛しながら生きてきた。そして微量の酒が入れば談論風発、現在の世相を、社会を憂える。

★…このように温容な人柄のため県内からの人望も厚く、いまでは教育界の大立物である。厚生財団が堅実に歩んでいるのも、人の意見をよく聞きいれて的確な判断と慎重な処理がされているためで、これが氏の力量というべきであろう。まれにみる読書家で、観世流の謡曲、短歌、囲碁など多趣味にわたり、生活に余裕と自信を持っている。

埼玉古墳

＝風土記の丘第二号をたずねる＝(上)

高田福松

高田福松氏

昨年の本紙に、白鳥宗紀氏の「神話の国におもう」と題して風土記の丘第一号に指定された「古墳の西都原（さいとばる）」を興味ふかく読ませていただいた。修学旅行の件で会合の折、風土記の丘第二号である埼玉県の埼玉（さきたま）古墳を取材してみませんかと依頼をうけ、小生が埼玉県であるので、六月下旬、梅雨の晴れ間をみて出かけた。

行田市の友人で新聞記者で、ボーイスカウトに奉仕四十年という大先輩の高野良一氏にご案内をお願いした。小生も教職の傍ら、ボーイスカウト奉仕をやらせてもらっているので、十五年も前に「埼玉の古墳」は、スカウトたちと共にに見学したことがあった。行田市（昔の忍＝おし＝城）も豊臣秀吉の武将石田三成の軍勢に攻められ城郭の周囲に水を引き込まれ纒城攻めにあったとかいう話は有名で現在も水城（すいじょう）公園の名も残っている市民の散策地でキャンプしたこともあった。

到着したのは午前八時、市の教育委員会の小宮軍治教育長さんをおたずねしたがお留守であったので、電話連絡をしていただいて、さっそく現地に向った。驚いたことには、すっかり趣きが変って壮大な資料館ができていた。

壮大な面影残す

保護政策にまもられて

資料館も一坪（三十三平方㍍）程で、案内していただいた老人が、一人でやっと支えているという感であった。古墳群は前回と同じように壮大であるが、そこで何百回と同じように壮大であるが、そこで何百回と同じように壮大であるが、そこで何百